

製品・サービス動向-国内

■ギンガシステム：ワンタッチボタンなどリモコン機能を強化した、簡単テレビ会議システムの新モデル「LoopGate 1002」を発売

(3月13日)



LoopGate1002(ギンガシステム)

ギンガシステム株式会社 (<https://ginga-sys.jp/>) (東京都渋谷区) は、簡単テレビ会議システム「LoopGate1002」の販売を開始する。

LoopGate1002 は、2017年9月に発売された簡単テレビ会議システム「LoopGate」の機能が強化されたモデルとなる。フルHD画質(30fps)に、音声については音楽CDと同じ20kHzの音声帯域でサンプリング周波数は音楽CD以上の48kHzを採用している。映像音声の通信はAES暗号化方式を採用している。専用機タイプの会議システムとして20年の実績に裏打ちされた安定性やワンタッチ操作などの簡単操作も特長。

LoopGate 1002 で強化された機能は以下の通り。

(1) リモコンの4つの「ワンタッチボタン」でLoopGateの電話帳に登録された接続先を設定することにより、ワンタッチボタンを一押しするだけで、接続できる。

(2) リモコン操作により、特定の参加者の画面だけを別の参加者へ配信することができる。研修やイベント配信の際に便利な機能。

(3) リモコンの「マイク1ボタン(マイク)」と「マイク2ボタン(パソコンなどの音声)」を切り替えて、接続相手に送信することができるようになった。たとえばパソコンで動画を再生して送信することも可能となっている。

(4) オプションの可動式カメラのパン/チルト/ズームをリモコンで操作することが可能になった。また、「プリセットボタン」に3つのカメラポジションを登録しておくこともできる。スムーズな会議進行に役に立つ機能。

ギンガシステムは1997年にテレビ会議システムの専門メーカーとして事業をスタートして以来、企業規模、業種・業態、地域、民間/公共の有無を問わず、2,400社以上の小規模から中堅、大企業まで、また官公庁・団体・大学などさまざまな企業・組織および個人にシリーズ累計8万台以上導入されている。

■ギンガシステム：イベント配信ソリューションの支援拡充

(3月6日)

ギンガシステム株式会社 (<https://ginga-sys.jp/>) (東京都渋谷区) は、新型コロナウイルス対策の影響により、中止や延期を予定しているイベントへの支援ソリューションにおいてサポート体制を拡充していると発表。

同社では、以前より、イベント会場の様子についてテレビ会議システムを通じて配信したり、展示会のブースから工場につないで技術者との相談窓口ブースを設置したりするなど、「LoopGate」を活用したイ

ントの中継をサポートしてきた。

LoopGate は、多地点での同時接続が可能で、信頼性の高いテレビ会議専用機でありながらモバイル回線でも通信できるため場所を選ばないという利点がある。そのためイベント会場や貸会議室での利用にも適している。加えて、イベント会場や施設に設置されている映像・音響設備とも連携ができ、指定する映像・音声のみを参加者へ配信することができる機能もある。会場での人的サポートや参加者へのテクニカルサポートにも対応している。

■ギンガシステム：テレワーク・在宅勤務の導入支援サポートを開始

(3月3日)

ギンガシステム株式会社 (<https://ginga-sys.jp/>) (東京都渋谷区) は、テレワーク・在宅勤務制度について新たに導入を検討している企業に対して、テレワーク・在宅勤務の導入支援サポートを開始する。



テレワーク・在宅勤務 スタートパック (ギンガシステム)

提供するテレビ会議システム「テレワーク・在宅勤務 スタートパック」は以下の通り。(1) LoopGate 小会議室セット (LoopGate 端末・カメラ・スピーカーマイク) 1 セット。(2) 「LoopGate for PC」/「LoopGate for Tablet」 3ID～(必要数に応じて追加申込が可能)。月額費用合計は、19,800 円～ (消費税別)。

機器の設置および設定に関すること、接続等の問い合わせについては電話サポートに対応している。加えて、初めの 3 回の会議準備のサポートも提供する (導入支援プログラム「THE FIRST 3 PROGRAM」)。導入担当者に成り代わり、実際に利用する各地点のユーザ

に LoopGate の使い方のコツを案内する。

2月26日より、既存ユーザのみテレワーク・在宅勤務の導入支援を提供してきた。しかし、政府によるコロナウイルス対策として全国公立小中学校の休講要請もあった背景から、テレワーク・在宅勤務に関する相談・問い合わせが非常に多かったため、新規の申し込み企業に対しても支援サポートを拡大実施することにした。

■NTT ビズリンク：多拠点への映像配信を可能にするオプションメニュー「SMART Cast」を追加

(3月2日)

エヌ・ティ・ティ・ビズリンク株式会社 (東京都文京区、以下 NTT ビズリンク) (<https://www.nttbiz.com/>) は、クラウド型テレビ会議サービス「SMART Communication & Collaboration Cloud (SMART)」に、多拠点への映像配信を可能にするオプションメニュー「SMART Cast」を追加した。



SmartCast イメージ (NTT ビズリンク)

Smart Cast は、普段使用しているテレビ会議環境を全国に向けた配信スタジオに早変わりさせるもの。

通常の会議模様の配信はもとより、幹部講話や研修・入社式やキックオフイベントの様態を遠隔地にいる社員がインターネット経由で手軽に PC やスマートフォンで視聴できる。リモートワークや天候不順時の対策、BCP 対策として集合型イベント実施が困難な際の代替手段としても幅広く活用できるとしている。

主な特長としては以下の通り。(1) 普段使っているテレビ会議で配信できるため特別な機材は不要でそのままリアルタイムの配信が可能となっている。(2)

インターネット経由で場所を選ばずPCやタブレット、スマートフォンで手軽に視聴できる。(3) 利用の際にワンタイム URL を都度生成するためセキュアにアクセスできる。加えてQRコードも併せて生成されるためスマートフォンなどからも簡単にアクセスできる。

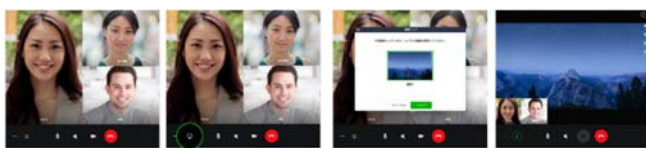
(4) 録画オプションで会議や研修の様態をオンデマンドで視聴することができる。

■LINE：グループビデオ通話中にパソコンを共有できる「画面シェア」機能を近日中に提供開始

(3月6日)

LINE株式会社 (<https://linecorp.com/ja/>) (東京都新宿区) が運営するコミュニケーションアプリ「LINE」で、参加者が同じ画面を見ながらビデオ通話できる「画面シェア」機能を近日中に提供を開始すると発表。

画面シェア機能は、グループでビデオ通話中にパソコンの画面をリアルタイムで表示することができる機能。グループに画面を共有する場合はパソコン版LINEが必要にはなるが、画面共有を見る側のユーザはスマートフォンをはじめ普段利用している端末で画面と参加者の顔(最大16名まで表示)を確認することができる。



画面共有ボタンをタップすると共有できる (LINE)



背景ぼかし機能 (LINE)

グループビデオ通話は3人から利用可能で、最大の利用人数は200人まで対応する。リモートワーク時のビデオ会議や塾のサテライト授業に最適という。また、ビデオ通話時にはフィルター機能や2月下旬に提供を

開始した「背景ぼかし」機能も提供されている。

LINEは現在8,300万人に利用されている。同社によるとLINEでは2020年2月下旬以降、非常に盛んにグループコミュニケーションが行われる傾向が見られるという。

具体的には、通常時の状況と比較すると、2月下旬以降、グループトークは1.3倍(メッセージ送信数)、OpenChatは1.5倍(メッセージ送信数)、グループ通話は1.7倍(利用回数・利用人数・利用時間)、グループビデオ通話(利用回数・利用人数・利用時間)は2.2倍となっており、利用率は日々伸長傾向にあるようだ。

また、同時期からはリモートワークの実施や学校休校を受けて、ビデオ会議やサテライト授業の実施方法について検討する声も増えてきたようだ。このような状況から、当初年内に提供開始予定であった画面シェアを近日中に実装することにした。

■ブイキューブ：Web会議用のカメラやマイクスピーカー「V-CUBE デバイス」を自社ブランドで販売開始

(3月9日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) は、Web会議用のカメラやマイクスピーカー「V-CUBE デバイス」を自社ブランドで販売開始する。

V-CUBE デバイスは、映像コミュニケーションソリューションプロバイダーとして蓄積してきた知見を踏まえ、オフィスに加えて在宅勤務を含めたテレワークでも利用できるよう、使いやすく高品質なマイクスピーカーとカメラをラインナップとして揃えた。

テレワーク時の快適な映像コミュニケーションを実現する仕組みをハードウェア面からも支援すべく、新規導入しやすい価格帯で提供する。V-CUBEだけでなく、「Zoom」・「Teams」・「Webex」などでも利用は可能。

汎用型カメラは、個人利用や持ち運びが可能な小さなサイズである一方、4K/60fps の映像品質や、120° の広角対応により、個人利用から 2~3 名の会議ブース、10 名以上を収容する会議室でも利用可能な汎用性の高いカメラ。「オートフレーミング」機能にも対応している。



V-CUBE デバイスラインナップ (バイキューブ)

高性能 PTZ カメラは、1080p/60fps の精細でなめらかな映像取得と光学 12 倍のズームが特長となっている、数十名を収容する大規模な会議室も対応可能な高性能カメラ。イベントや講演会、授業等さまざまな利用シーンで活用ができるとしている。

汎用性マイクスピーカーは、直感的に利用でき、スマートフォンにも接続が可能となっている。バッテリー内蔵で持ち運びもできるため、場所を選ばず手軽に利用できるようになっている。入力ボリュームの自動最適化、自動エコー/ノイズキャンセリング機能、複数拠点同時発話の対応など、音の品質を最大限高める設計により、音のストレスが少ない Web 会議を実現する。本機 1 台で 6 名程度の会議室にも対応できる。

なお、3 月 6 日に東京都から発表された「事業継続緊急対策(テレワーク)助成金」の対象として導入も可能となっている。同社ではこの助成金に関する相談窓口も開設したことも別のプレスリリースにて発表している(3月9日)。

ビジネス動向-国内

■プリンストン：クラウド会議サービス「Zoom」取り扱い開始

(3月10日)

株式会社プリンストン (<https://www.princeton.co.jp/>) (東京都千代田区)は、Zoom Video Communications 社(米国・サンノゼ)がグローバルで提供するクラウドベースの会議サービス「Zoom」の取り扱いを開始する。

プリンストンが取り扱う UC ソリューション、主バンダーのひとつである Poly は、Zoom とアライアンスを強化しており、Zoom のクラウドサービスにネイティブに接続できる、「Zoom Room App」搭載のビデオ会議システム「Poly G7500」および「Poly Studio X ファミリー」を提供している。

今回の Zoom 取り扱い開始により、プリンストンでは Poly G7500 および Poly Studio X ファミリーと合わせて、Zoom ライセンスもワンストップで提供可能となる。

■SB C&S：ビデオ会議ソフト「Zoom」の取扱いを開始

(PR Times：3月12日)

SB C&S 株式会社 (<https://cas.softbank.jp/>) (東京都港区)は、Zoom Video Communications 社(米国・カリフォルニア州)のビデオ会議ソフト「Zoom」の取り扱いを開始する。

2019年1月1日、ソフトバンク コマース&サービス株式会社から商号変更したのが SB C&S 株式会社。IT 関連の幅広い製品の販売実績から、Zoom ジャパンによると、SB C&S と一緒にビデオ会議の更なる日本市場への浸透を目指すと同時に、SB C&S が取り扱うさまざまなメーカーとも連携することを考えている。

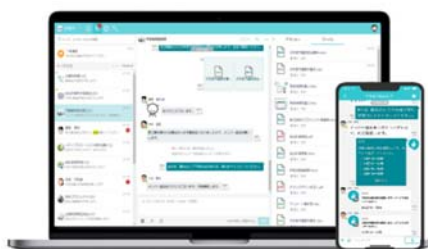
取り扱い開始とともに Zoom 相談センターを開設

(<https://www.it-ex.com/promo/zoom/>)。サイトでは Zoom の特長やプラン、ソリューション、Zoom が選ばれる理由、ホワイトペーパーなどの情報が提供されている。価格は、「Zoom ミーティング Pro」で、1 ライセンス年額 24,000 円～。

■トラストバンク：自治体専用チャット「LoGo（ロゴ）チャット」の無料トライアル自治体が 100 自治体（5 万ユーザ）に到達

(PRTimes:2月28日)

株式会社トラストバンク (<https://www.trustbank.co.jp/>) (東京都目黒区) は、2月28日、同社が開発している自治体専用チャット「LoGo（ロゴ）チャット」の無料トライアル自治体が 100 自治体（50,099 ユーザ）に達したことを発表した。



LoGo ビジネスチャット（トラストバンク）

LoGo は、ICT で自治体の業務効率化を支援するため同社が昨年 9 月に開発。セキュアな行政専用回線である総合行政ネットワーク (LGWAN) 上で使える国内初の自治体専用ビジネスチャットアプリ。

自治体職員は LGWAN-ASP 環境で、庁内や他自治体とテキストやファイル、写真などのファイル添付送受信ができる。また、文脈までわかる全文検索、未読者・既読者の確認、アクションスタンプ、名前・部署名検索、まとめて送信などが主な機能として提供されている。

さらに、LGWAN 環境内だけでなく公衆インター

ネット回線を通した、モバイルアプリで出向中の職員やふるさと納税の返礼品を提供する事業者など外部機関とのやりとりも行える。

LoGo は、北海道北広島市、山形県朝日町、福島県伊達市、埼玉県深谷市、千葉県御宿町、大阪府寝屋川市、高知県須崎市、宮崎県、熊本県宇城市など 100 自治体 50,099 ユーザが登録されており、たとえば、埼玉県深谷市では、全職員 1,100 人に試行導入し、庁内外の連絡などで活用。年間 66,000 時間、約 2 億 6,400 万円の削減効果があったという。また、福島県伊達市では、台風 19 号の災害対策本部と避難所の情報共有、北海道北広島市では外部関係者とのやりとりなど、LoGo は幅広い業務で利用されているという。さらに、新型コロナウイルス対策にともない、テレワークの環境整備や対面会議の代替手段としての活用も広がっている。

■バイキューブ：ソースネクストとのテレワークソリューション協業、「Krisp Pro」と「V-CUBE ミーティング ベーシック」をソースネクストで販売開始

(3月10日、3月12日)

株式会社バイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) とソースネクスト株式会社 (<https://www.sourcenext.com/>) (東京都港区) は、テレワークソリューション分野で協業し、バイキューブが提供するテレワークソリューションをソースネクストが持つチャネルを通じて販売展開していくと発表。

新型コロナウイルス対策の一環として、政府はテレワークの導入を推奨している。ソースネクストはテレワーク関連のソフトウェア・サービス、ハードウェアをスピーディに提供していく方針を打ち出している。また、バイキューブは Web 会議市場で 12 年連続国内シェア NO.1 のリーディングカンパニーとして、多くの企業のテレワーク、働き方改革の実現に向けたテレワークソリューションの導入を支援してきた実績があ

る。

ブイキューブは中堅企業から大企業、ソースネクストは個人、中小企業を中心とした販路と顧客層をもっているため、両社が持つ強みを相互に補完し合うことで事業シナジーを創出する。

協業では、通話中のノイズを軽減するサービス「Krisp Pro」（3月10日付プレスリリース発表）や、個人や中小企業に導入しやすいプラン「V-CUBE ミーティング ベーシック」（3月12日付プレスリリース発表）をソースネクストが培ってきた会員数 1700 万人をこえる自社オンラインショップなどで販売開始する。なお、製品の発売日に関する詳細は、決まり次第、ソースネクストの自社オンラインショップにてお知らせするとしている。

■ブイキューブ：テレワーク時に社内データにアクセスするためのリモートアクセスを Web 会議と連携させて販売開始

（3月6日）

株式会社ブイキューブ（<https://jp.vcube.com/>）（東京都港区）は、Web 会議サービス「V-CUBE ミーティング」とリモートアクセスサービス「MagicConnect」を組み合わせ、テレワーク先から社内にある基幹システムやイントラネットへ安全にアクセスし、オフィス内にある資料やデータを共有しながら Web 会議を実現するテレワークソリューションを提供開始する。

リモートアクセスサービス MagicConnect は、NTT テクノクロス株式会社（<https://www.ntt-tx.co.jp/>）（東京都港区）が提供する、手元端末にオフィス PC のデスクトップ画面を呼び出して操作するサービス。MagicConnect は画面転送方式のリモートアクセスツールであり、オフィス PC の業務ソフトや社内システムなどをすべて社外で安全に利用できる。これにより社内データを持ち出すことなく、普段と同じ環境で仕事ができるというメリットがある。

テレワーク導入が急速に進んでいるものの、一方で基幹システムやイントラネットにアクセスし、社内にある資料やデータの閲覧ができないとテレワーク環境で行えない業務があり支障が出ているという。そういった課題に対応したのが今回のテレワークソリューションになる。

※関連記事：定期レポート(2019年8月31日号)

ビジネス動向-海外

■Lifesize 社：SaaS ベースの UC コンタクトセンターソリューションを提供する Serenova 社と合併、ビデオ会議ソリューションからコンタクトセンターソリューションまで提供する新事業会社誕生

（取材：3月10日）

Lifesize 社（<https://www.lifesize.com/ja>）（米国・テキサス州）は、SaaS ベースの UC コンタクトセンター（ビデオコンタクトセンター）ソリューションを展開している Serenova 社（<https://www.serenova.com/>）との合併したことを発表した。

この合併により、世界に 1 万の企業ユーザを持つ、コンタクトセンター向けソリューションとビデオ会議ソリューションの両方を提供する事業会社が誕生する。

この新会社の CEO には、Lifesize 社 CEO Craig Malloy 氏が就任。また、Serenova 社 CEO John Lynch 氏は主要なグローバルユーザ企業を含めた販売担当上級担当副社長に就任する。

ライフサイズジャパンによると、この合併によって、財務体質がより強化され、製品レンジも広がることになるという。当面、両社はそれぞれこれまでどおりの事業を継続するが、将来的には両社の持つ技術の融合や新製品の投入を計画しているという。

「今回の合併で、日本でのライフサイズ製品の展開

および体制等について変更はない。また、Sorenova 製品群の日本での展開に関しては検討中だ。」（ライフサイズジャパン）

なお、Lifesize 社と Sorenova 社は、67 億ドルを運用する投資ファンドである Marlin Equity Partners が出資している企業でもある。

サービス等無償提供発表企業

コロナウイルスの影響からテレワークや在宅勤務を行う企業などが増えています。そういった企業などを支援する目的で遠隔会議・ユニファイドコミュニケーション提供会社がサービスなど無償提供を行う動きがとくに2、3月に入ってから活発になっています。

ここでは、CNA レポート・ジャパンが3月15日現在把握した、無償提供もしくは機能拡張などのプレスリリースを行った提供会社の名前と URL（ホームページもしくは当該ページ）を掲載します。各社3月もしくは4月末までなど期間限定となっています。詳細は各社ホームページまたは直接お問い合わせください。皆様のご参考になればと思います。（順不同）

■経産省（学びを止めない未来の教室、Zoom 教育関係）：

https://www.learning-innovation.go.jp/covid_19/zoom/

■ライフサイズ社（クラウドサービス）

<https://pages.get.lifesize.com/remote-work-with-lifesize/>

■インタビューメーカー（Web 面接）

<https://interview-maker.jp/>

■ドコモシステムズ（Web 会議 sMeeting）

<https://ddreams.docomo-sys.co.jp/smeeting/>

■RSUPPORT(Web 会議 RemoteMeeting など)

<https://www.rsupport.com/ja-jp/>

■DialPad(クラウド PBX)

<https://www.dialpad.co.jp/>

■アバー・インフォメーション（デモ機など無償貸出し）

<https://jp.aver.com/>

■ブイキューブ（V-CUBE ミーティング、営業、教育向けなど）<https://jp.vcube.com/>

■ベルフェイス（営業特化 Web 会議）

<https://bell-face.com/>

■プリンストン（クラウド会議サービス BlueJeans）

<https://www.princeton.co.jp/news/2020/03/202003101100.html>

■AloT クラウド（Web 会議）

<https://www.aiotcloud.co.jp/>

■ポリグロットリンク（遠隔通話サービス、学校向け）

<https://polyglot-link.co.jp/>

■ギンガシステム（LoopGate for PC/Tablet）

<https://ginga-sys.jp/>

■シスコシステムズ（Web 会議 Webex）

https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/solutions/collaboration/webex/90days.html

■ネオキャリア（Web 会議 Calling）

<https://www.calling.fun/>

■meet in（Web 会議ミートイン、教育向け）

<https://meet-in.jp/>

■マルジュ（Web 面接 SOKUMEN）

<https://www.maru.jp/sokumen/>

■トラストバンク（自治体専用チャット LoGo）

<https://www.trustbank.co.jp/>

■ビジョン（ビジネス向け SNS ツール JANDI）

<https://vws-biz.com/jandi/>

PR

■ヤマハ株式会社



ユニファイド
コミュニケーション
スピーカーフォン YVC-200

<https://sound-solution.yamaha.com/products/uc/yvc-200/index>

セミナー・展示会情報

<国内>

■ZOOM/GOOGLE を使って 会議室でビデオ会議を！

日時： 3月18日(水) 14:00-16:00 (13:50 開場)

主催： 株式会社 ロジクール

会場: ロジクール セミナールーム

詳細・申込：<https://info.logitech.com/0318-2020-logicool-seminar-jp.html>

■バイキューブセミナー情報 (3月)

「いまさら聞けないWeb会議とテレビ会議の違い 選び方徹底解説セミナー」、「オフィスの「会議室足りない問題」に。スマートワークブース「テレキューブ」体験会」、「テレワーク環境をスムーズに整える秘訣とは?～安心してテレワークするためのITツールガイド～」など
会場：(東京・Webセミナー)

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事のみ）ですが、CNA レポート・ジャパンでは、それ以外の業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

定期レポートバックナンバー

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記で閲覧できます。

<http://www.cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

編集後記



ヤマハYVC-200をしばらく試してみることにしました。まずはYoutubeの音楽を再生。低音が効いたまろやかな響きで十分な音量。いい音です。初めての通話は知人からのLINE通話でした。LINEの音質に忠実に明瞭な会話ができました。ペアリングなどこれからいろいろと試してみます。

CNAレポート・ジャパン 2020年3月15日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp